



NPO 法人

ひろしま人と樹の会

会報 No. 288

□理 事 長 石丸 榮満

□事 務 局 〒733 - 0852 広島市西区鈴が峰町 16 - 20 (中元明弘)

Tel & fax 082 - 277 - 9490 E-mail: hirosimaitotokinokai@yahoo.co.jp

□年 会 費 個人 2,000 円 団体 5,000 円 郵便振替 01360-4-29388 「ひろしま人と樹の会」

□編集責任者 古川ちひろ

本号の内容

<セミナーのご案内>

1. 【再掲】番外編 現場セミナー
第 26 回桜守プロジェクト
土師ダム湖畔のさくら並木の手入れ
(下準備 2/26 : 火、本番 3/3 : 日)
安芸高田市八千代町土師

<セミナー等の報告>

1. 番外編現場セミナー 竹林整備
(第 2 弾 12/15・16 第 3 弾 1/22)
安芸高田市八千代町土師
2. 番外編「さとやま体験活動リーダー
養成講座」を受講して(前編)
(1/19・20 : 土・日)
安芸高田市高宮町エコミュージアム川根

<事務局からのお知らせ>

チラシ 木のまちはつかいち 記念講演
「伝統芸能「木場の角乗」の継承

◆セミナーのご案内◆

1. 【再掲】番外編 現場セミナー 第 26 回桜守プロジェクト 土師ダム湖畔のさくら並木の手入れ (下準備 2/26 : 火、本番 3/3 : 日) 安芸高田市八千代町土師

土師ダム湖畔には、6,000 本のさくらが植栽され
「全国さくら 100 選」に選ばれ、県民に親しまれてい
ます。

この名物のさくらの木は、高齢化が進み、天狗巣病
などにかかり生育不良も多く、場所によれば著しく景
観を損ねて緊急に手入れが必要になっています。

この度も公園を管理されている国土交通省の土師ダム
水源地域ビジョン「桜守プロジェクトチーム」から病
気の桜を元気にする手伝いを要請されました。

ついては、お手伝いに次の通り参画しますのでご協
力をお願いいたします。

どなたでも参加できます。体力に見合った作業を用
意しますのでお子様や友人、知人お誘いあわせで参加
をお願いいたします。

1 日時

①下準備 2月26日(火) 9時～15時

(チェーンソーを扱う方募集:10人)

②本 番 3月3日(日) 9時～15時

(桜の枝払い、枝の集積、運搬、施肥、
なめこの植菌など)2 場所

安芸高田市八千代町土師「のどごえ公園」周辺

集合場所:土師ダム湖畔「はじまる館」

8時30分受付

3 参加募集

100人(予定)

4 作業内容

①下準備 病気の桜木伐倒

(チェーンソー経験者が対象)

②本 番 桜の枝払い、枝の集積、運搬、

施肥、なめこの植菌など

(どなたでも参加できます。)

5 会費

無料(食事付き)

6 持参品

作業のできる服装、タオル、ヘルメット、

ノコ、山鎌など

7 主催

土師ダム桜守プロジェクト

(協力:NP0法人ひろしま人と樹の会)

8 申込先

事務局 中元まで2月22日必着

参加申込書 TEL・FAX 082-277-9490

名 前 (年齢)	住 所	連絡先 (TEL)	参加日に○印を付ける
			① 2/26 ②3/3
			① 2/26 ②3/3
			① 2/26 ②3/3

【土師ダム湖畔位置図】



【出典】Yahoo!地図

◆セミナーのご報告◆

1. 番外編現場セミナー 竹林整備 (第2弾 12/15・16 第3弾 1/22) 安芸高田市八千代町土師

質の良い竹の子を生産する竹林整備の第2弾、第3弾の報告です。

【12月15日】

晴天の下、14名が参加し、竹林伐採、玉切り、運搬、チップパー機で粉碎、堆肥づくりを行いました。



伐採は前回と同様に A ブロック、B ブロックに分けて行いました。

B ブロックは人家の裏山の竹林です。山林の境に鹿などの有害防止策が設置されており竹材の持ち出しが困難なため枯れ、曲がり、傷ついた竹を中心に伐採、山林内に棹と枝に分けて斜面と直角の方向に棚積みになりました。作業は約 500 m²が残りました。



A ブロックは人家の横で田んぼに接近し、環境にも配慮が必要な現場です。良質の竹の子を生産するため 1 m²に 1 本から 2 本の竹を残して伐

採、その全てを、玉切り、運搬、チップ粉碎し堆肥化（チップ生産；約 2 t）しました。



また、一部の竹材(棹)は竹樋や八千代町里山保全祭りの正月飾りの竹鉢、門松として使用し喜ばれました。



【12月16日曇り後雨】

6 人の参加の下、B ブロックの残り 500 m²の整備を行いました。天気予報の通り午後から雨、参加者は雨の降るまでに終えようとそれぞれが

頑張り何とか雨の降る前に無事に終了しました。昼食は雨のため渡利さん宅に移動、お漬物や飲み物の差し入れをいただきました。渡利さんありがとうございました。美味しくいただいた後解散しました。

【1 月 22 日(火)晴れ】

3 人の参加の下、A ブロックに積重ねて環境を阻害している棹や枝類を運搬処理しました。運搬先は勝田里山保全会(会長山本優)の協力をいただき、同会がチップパー機で木や竹を処理している現場(約 1 km)です。軽四トラックに積み込み 4 往復運搬し終了した。



この結果、良質の竹の子の生産林として整備を終えるとともに周辺の環境がとてもよくなり事業の目的を果たすことができました。竹林所有者や隣家の方々からは、藪が明るく見透視が良くなった。竹の子も沢山出ると思う、八千代町特産品として現在試作中の品(しなちく、たけするめ)の加工に、一層力が入ると大変喜ばれた。皆さんお疲れさまでした。

(報告者：櫻井充弘)



2. 番外編「さとやま体験活動リーダー養成講座」を受講して(前編) (1/19・20:土・日) 安芸高田市高宮町 エコミュージアム川根

1 月 19 日(土)、20 日(日)に安芸高田市高宮町のエコミュージアム川根で開催された「さとやま体験活動リーダー養成講座」を受講してきましたので、報告します。

この講座は、安芸高田市の元地域おこし協力隊員の南澤さんが中心となって企画実施された講座で、2 月 16 日(土)、17 日(日)にも後編が開催され、4 日間を通して受講、修了すると、全国体験活動指導者認定委員会自然体験活動部会(NEAL)の自然体験活動指導者(NEAL リーダー)への登録資格が得られます。

(NEAL について興味のある方はネット等で調べてみてください。ここでの説明は割愛します。)

当日の参加者は、NEAL 養成団体の講師である大朝から来られた河野宏樹先生と主催者南澤さんも含めた受講生 6 名と某受講生の 4 歳の坊やの計 8 名、こじんまりとした講座になりました。最初 30 分程度オリエンテーションがあった後は、参加者相互の緊張を解く「アイスブレイキングタイム」。参加者それぞれが円陣になって名前、ニックネーム、好きな食べ物を紙に

書いて自己紹介をし、円陣を組んで参加者が名前を呼びながらボールを相手に投げるゲームや、背中に張り付けた動物の絵札を他の参加者に見せながら質問して自分の背中の動物は何かを当てるゲームで、参加者の気持ちがほぐれました。

少し早目の昼食ではエコミュージアム川根の蕎麦をいただき、午後からは、実演習。まずは、ロープワークから。もやい結び、馬つなぎ結び、巻き結びなどを河野先生が教えて下さるのですが、できる結び方もあれば、「あれ、あれ？どこで違ったの？」とか「待って、待って、わからん！」といったような声も飛び、時には受講者相互で教えあいながら基本のロープワークを学びました。

次は、外に出てロープワークを応用して簡単なスラックライン（簡単な綱渡り遊具）を作ってみました。結び方をきちんとするというだけでなく、ロープをしっかり張っても次第にゆるみが出ること、長いスパンで張れば中央部分のたわみがどうしても出ることなど、実際に体験してみないと分からないことを学ぶとともに、実際にスラックラインを体験すると見た目以上に難しい、だから危険もついて回るといったことなども分かりました。



次は火起こし体験です。各自マッチを3本だけ与えられ、たき火を起すという課題に挑戦しました。燃やす材料はエコミュージアムの周

りにある自然物だけということで進めました。が、面白いことに皆さんのアプローチの仕方がまちまち。ある受講者がフェイスブックに報告されていた表現を紹介すると、「上面着火を試みる人、極小の火を長く燃やす人、青い葉っぱも燃やす人（私です）、中くらいの太さの木ばかりを使う人、いろいろ。」という具合でセオリーだけでなくそれぞれが創意工夫することが大切なんだなと思いました。ちなみに、私はちゃんと2本目のマッチで「青い葉」にも負けずにたき火を起こせました。



最後は、このたき火を活用してダッチオーブンと燗製器を使った野外調理実習です。主催者南澤さんは狩猟免許の保持者ということで、イノシシとシカの肉を大量に差し入れていただき、野生肉のトマトソース煮込みと簡単な冷燗を作りました。と言っても私はもっぱらたき火の維持に回り、皆さんが材料や調味料を入れるたびに「おおー」と合いの手を入れるくらいであまり学ぶ暇がなかったのですが、ダッチオーブンで煮込むとそうでない肉と比べて格段に柔らかくなる、安いチーズも少し冷燗にするだけで高級な味になるということはきちんと学びました。ということで、料理が出来上がるころには夕方5時すぎ、河野先生のビール解禁の声もいただき、少しつまみ食いをして料理の出来を確認しました。

夕食はこの料理に加え、エコミュージアム川

根の絶品メニュー。アユの塩焼きなどもいただきながら各自が持ち寄ったお酒も飲んで、夜の 12 時まで懇親を深めました。

さて、2 日目は安全管理について学びました。自然体験は非日常の体験で危険なことを避けて通れません。危険なことはしないということであれば、自然体験活動はやめざるを得ません。ですから、危険やリスクを知ったうえで活動を進めていくという自覚が大切になってきます。



【安全管理について講義される河野先生】

危険には「ハザード」と「リスク」の 2 種あるそうです。「ハザード」は排除しておかないと体験活動が成り立たない危険であることに対して、「リスク」は活動の中に限りなく存在している危険因子ですが排除するのではなく、危険なことを回避できるよう体験から学ぶ対象となるものです。とは言いながら指導者はこの「リスク」をきちんと予知しておかなければ、

安全な自然体験活動は実施できません。そのためにも、現地を予め下見して危険な状況を洗い出しておいたり、対象者がどんな人たち（子ども or 大人、初心者 or 上級者）なのかを理解して危険予知をしておかないといけないのです。

そのうえで、洗い出した危険状況を「危険度」の大小と「頻度」の大小で仕分けし、個々に対策を立て、それをきちんと実行し、さらには実行後の評価もしっかりと行っておくことが重要なのだということを、室内の演習や屋外での危険探し実習などを通して学びました。

最後は、「センス オブ ワンダー」という本の一部を河野さんが紹介され、自然体験活動は知識を学ぶ場ではなく「神秘さや不思議さに目を見張る感性を高める場」になることが大切であり、この感性がしっかりとできていれば、出会う事実のひとつひとつから知識や知恵を生み出し育むことができる人間になるのだということについて参加者全員が意見交換と共有をして研修の前編を終えました。

後編は 2 月 16-17 日にまたエコミュージアム川根であります。後編では受講者それぞれが簡単な自然体験プログラムを考え実践してみることになっています。前編で出会えた皆さんとまた有意義な時間が過ごせそうです。次回の会報でまたご報告いたします。

(報告者 神川勇人)

<事務局からのお知らせ>

●次の方から会費の納入がありました。(敬称略)

【既会員】 2,000 円(中越信和:31 年度分預かり)

【新規加入会員】 2,000 円(中尾一弘:31 年度分預かり)

●次の方から寄付がありました。(敬称略)

40,000 円(沖田泰夫さんほか 10 名:寄付者の方に炭を進呈しました)